

# 臼田協働まちづくりWS 活カグループ

## コンパクトシティ

- 1、都市機能・公共施設等はあまり分散配置せず、出来るだけ中心部へまとめて、より活力を生み出すよう、また利便性の向上と共に合わせてコミュニティのとりやすい場を提供する。
- 2、将来の省エネ都市、まちづくりはインフラ整備・維持にあまりお金がかからないよう配慮したり、場合によっては、個人の自由をある程度規制してでも協力を得て、これからやってくる高齢化・人口の減少社会を生きていくための仕組み、住みよいまちづくりを進める。
- 3、とりあえず、中央交差点を基に半径約500m以内を重点地域として整備計画を立てる。
- 4、半径500mの範囲にすれば、現状でもコンパクトシティではないか。後日、商店街の中身を良くすを良くすることではないか。
- 5、臼田地域はコンパクトシティの構想500m範囲とはいかないまでも、諸機関はコンパクトにまとまっている。利便性を考え、賛成。
- 6、病院は核となる施設であるが、臼田の住人だけが利用するのではない。コンパクトとは言え、半径1Km位の範囲を想定し、他の施設との協働を考えていきたい。病院関係者を含む「臼田に住みたい」と思う人達が増えてくれるように、生活環境の整備が必要となってくるであろう。
- 7、佐久総合病院を中心とした「高齢者の住みやすい、福祉の充実したまちづくり」が今後の臼田には必要。病院を中心として高齢者が生活するための必要な施設(公的機関、金融機関、買物がしやすい商店、住居、道路等)の整備を図り、高齢者が徒歩にて可能な範囲にそれらの施設をを集約させることが臼田存続には欠かせないと思う。
- 8、主題(1) : 「コンパクトシティ」地域を設定し、整備を進める。  
佐久総合病院、中央商店街を含む直径ほぼ数百m程度の範囲に、旧臼田町4地域の(以下、地域住民という)にとって、健康で安心・安定した日常生活を営む上で必要な諸事象ををほぼ充足できるワンストップ的機能をもった地域(以下、コンパクトシティという)を設定し、再開発的に整備する。  
コンパクトシティには次のような機能を整備、充実する。
  - ① 日常生活の衣食住に関するほとんどのニーズに応えられる各種店舗が集積、充実している。
  - ② 行政、銀行、郵便局、警察等の各種社会的手続きに関する機能が集積している。
  - ③ 駐車場や通行体制が整備・充実し、安心安全に利用できる。
  - ④ 健康維持や医療受診等に関わる佐久総合病院と開業医、薬局・薬店、包括支援センター等との連携体制が整い充実している。
  - ⑤ 内外の来訪者が気楽に交流、団欒等の出来る複合的オアシス広場が整備されている。

- 1、商店街に活力を、出来るところから始めよう隊、特に若い経営者に協力体制を募る。
- 2、商工会等の組織を変質化、特に商業関係部門を独立組織とし協働組合化、営利事業を展開し、インターネットの利用、道の駅的地産商品販売、空き店舗貸し出し仲介、買物弱者対策を実施する。
- 3、病院関連・福祉・医薬・健康関係部門を特徴づけた事業、まちづくりを展開する。
- 4、健康食品・健康生活・介護・リハビリ等、健康都市に関連する産業、及び事業を優遇、誘致し定住人口を増やす。
- 5、病院が縮小されれば、人口も減り経済も小さくなると思います。③「商店街の活性化、共同スーパーの運営、買い物難民の解消」は、なかなか難しいと思われます。現存するスーパーと行政と手を組んで、ミニバスを走らせること等がよいかと思います。
- 6、病院を中心としたエリアで経済が活性化されるには、病院に来られる方の視点に立って、魅力ある商店作りが必要となる。  
求められるのが、商品なのかソフトなのか？など、全く新しいアイデアが必要となるであろう。「医療」「介護」「健康」などキーワードとした新しい店舗展開が期待される場所である。
- 7、ホームページにて、多くの人に知ってもらうチャンスを作る必要性を感じる。積極的にやるべき。
- 8、②③⑤⑦は同一線上の課題に据え考えると、整理しやすくなると思う。新しい経営者・買い物難民解消・SOHOなど、行政・地域の協力なくして成立しない問題だと思えます。
- 9、コンパクトシティを構築するための商店街の整備が不可欠。高齢者の嗜好に合わせた品揃え等十分配慮した店舗の配置が必要であり、空き店舗対策も並行して行うべき。また、介護、福祉関連産業の更なる拡大も必要。
- 10、
  - 1) 日常生活の衣食住 + “楽しみ・ゆとり”に関わる店舗も集積、充実している。
    - ① 現状店舗は元より、複合的オアシス広場周囲にファミレス・喫茶店・居酒屋等を誘致。(特に地元以外の来訪者が一刻をゆったり、楽しく過ごせる雰囲気・場所は不可欠)
    - ② 来訪者(消費者)への接客マナー・サービスのあり様の抜本的改革(現状課題あり)。
    - ③ 近郊大型店舗等とのサービス連携の強化、対価支払方法の多様化。
  - 2) 行政等の各種手続きに関する機能が集積している。
    - ① 現状をベースに、弁護士事務所の誘致が望ましい。

3) コンパクトシティを含む周辺地域の経済的基盤力、活力を高める。

- ① 周辺地域の空き店舗等を活用し、子育て世代や若者の転入・定着を促す支援策の実施。
  - ・学習宿、乳幼児等の託児所、ミニ図書館などの開設。
  - ・医療・福祉や健康関連業種、SOHO起業者等を廉価な家賃で誘致、活用および育成強化。
- ② 医療用資機材メーカーの誘致、関連倉庫の提供、地元企業との生産連携体制の強化。
- ③ 病院施設関連の保守管理対応企業の育成強化。
- ④ 地元の特産物や農産物販売の「道の駅」開設、空き店舗・後継者難店舗の新経営者の誘致。
- ⑤ 地域住民の買い物弱者に対する支援体制の充実(定期巡回販売、注文お届けサービス)。
- ⑥ 商工会活動全般の見直し、刷新。  
(個別店舗・起業の盛衰と地域の盛衰は不可分であることを前提とした地域連携のあり方、長期ビジョン・戦略の企画、後継者問題、人材育成など)

## 観光

- 1、何をアピールするかを明確にし、そのための看板・広告をもっと積極的にし、目的地へ誰でも迷わず簡単に行けるように環境整備をする。
- 2、案内看板や、行先表示板を統一デザイン化し、分かり易いものにする。
- 3、とにかく案内看板が不備。どちらから来ても見えるものに。特に夜、光るものが欲しい。ことに、スタードームへの案内。
- 4、稲荷山公園をもっと有効活用し、老人や車椅子でも周遊散歩出来るよう、駐車場も含め整備する。また、市所有地と神社地の調整を計り市民公園として統一した整備が出来るよう特に行政側の積極的な対応を期待する。
- 5、竜岡城五稜郭・新海神社・稲荷神社・公園・佐久病院・パラボナアンテナ等、既存にある資源を活かして周遊コース的に紹介出来るようにする。
- 6、オアシス広場と道路・駐車場、稲荷山公園・病院見学ツアーなどをリンクさせ、病院を中心に人が回遊できるように、観光に位置づけた方が良いのではないか。
- 7、「農村」「医療」「健康」「長寿」などテーマを絞って、臼田地区全域にある観光資源を有効活用する必要がある。

- 8、佐久総合病院を観光コースに加える事は賛成できない。視察と観光は異なる。
- 9、ワンコイン銭湯、プールも観光と切り離す。近隣の日帰り温泉施設が観光に結びついていないように思える。
- 10、④の稲荷山公園をもっと利用できるように整備できればと思います。地権者の了解が得られるよう行政からのアプローチ必要。
- 11、稲荷地区の街路整備は完成しているはず。また星の名前を冠した街路等は幹線道路においては完了しているのでは？
- 12、臼田地区の観光資源を活かしていく為には、行政とJRのコラボレーションを強かに押し進めたらどうでしょうか。  
JRのパンフ駅からハイキング等に記載依頼。
- 13、臼田の名所(五稜郭、新海三者神社、蕃松院、川村吾蔵記念館等)をもっと上手にアピールし、集客を図る必要がある。歴史のあるもの、貴重なものが臼田には沢山あり、それらを県内外に知らしめることが大事。
- 14、星ツアーも必要。瀧観音への信仰ツアーも、寺院めぐり、運動公園の桜まつり、川村旧宅の見学。
- 15、ぴんぴんころりの考えより、もう一歩前に出たものを。
- 16、稲荷山公園の花木の管理を、地元高校生に任せる。
- 17、人間ドッグツアーはかつて、農園で作ったもの、地元の農家の作ったものを売ったが、その様な関わりを。
- 18、コンパクトシティ周辺への集客力の向上。
  - ① 内外の来訪者が気楽に交流・団欒し、休息できる複合的オアシス広場・環境の整備。
  - ② 佐久市内等の歴史・文化等の巡回ツアーの発着点、高速道路バスの発着点としての整備。
  - ③ 千曲川河川敷に親水公園を設置し、同時に稲荷山公園を整備・充実して、散策・遊歩ルートや簡易休憩所を設ける。
  - ④ 域内来訪者への地域特性の積極的売り込み・・・案内看板・観光施設マップ・星座名道路。
  - ⑤ 入院付き添いや遠方見舞い客、個人旅行者のための宿泊施設の誘致。
  - ⑥ 病院見学や人間ドック受診と周辺地域観光とを組み合わせたツアー客の誘致。
  - ⑦ 対外向け情報提供の独自ホームページ立ち上げ・運営。  
(コンパクトシティ連合主体に、臼田総合支所・佐久総合病院とも連携)

- 1、佐久病院再構築事業に合わせ整備する。行政のまちづくり計画構想を実現するチャンスとして活かすべきである。
- 2、河川敷駐車場は佐久病院再構築に合わせ廃止し、街中へ整備するよう要望する。また、河川敷は計画が頓挫している県建設事務所の「千曲川河川敷環境整備マスタープラン」に基づき親水公園として整備する。
- 3、河川敷駐車場がなくなるので、市の中央ビルを中心に、ビル裏は病院の土地も多くあるので利用させてもらい、足りない分は買い増して立体駐車場を造り、患者さん等が病院や商店街や市役所等を回遊できる様にしたい。
- 4、周辺の駐車場整備は、とても重要な課題である。臼田支所の駐車場も含め、立体化を早期に進めるべきである。  
民間の病院利用駐車場についても、一体的な進め方が良いのではないか。過去にも多くの議論がされてきた様に、まちづくりの観点に立つと行政がリードする形で周辺整備を進るしかないと思う。
- 5、病院近辺の商店及び住民の皆さんに協力を得て、道路・駐車場加えて町並みを、利用する側に合わせたミニ区画整理をする。
- 6、中央ビルの位置に立体駐車場整備し、商店街と一体感—一体感のあるまちづくりには賛成、地権者の協力が得られるように、行政の協力が必要。
- 7、コンパクトシティの駐車場、道路体系の整備・見直し。
  - ① 複数の駐車場(含む立体駐車場)を設置し、それに関わるアクセス道路の拡幅・整備。
  - ② 各駐車場からシティ内各所への道路体系の見直し…歩行者優先道路、無料の買い物車両、車椅子への配慮、雨対策などを整備しシティ内通行者の利便性を高める。
- 8、佐久病院の各地に分散している医師住宅・駐車場等も含め、コンパクトシティ構想のコンセプトでまちづくりを進める。
- 9、歩道は出来るだけ広く取り、車椅子で安心して通れるようにし、カラータイル舗装で特徴づけ、明るい町並みを作り出すよう整備する。佐久病院まわりから、臼田支所近辺を重点的に対応整備し、順次範囲を広げる。
- 10、⑤の歩行者優先ゾーンは観光で。移動手段については、廃自転車を再利用した商工会三反田支部の実行力を評価。
- 11、コンパクトシティ構築、観光客集客のためには、周辺道路および駐車場の整備、高齢者向けの歩きやすい歩道の設置等、見直すべきところが多数ある。

12、これから自転車が使われる。自転車の通る道路の整備。

貸し自転車、仮にのらくろ自転車として、(イ)地点から乗って、(ロ)地点で降りてもそのまま、手続きなどないような駐輪場の設備を。駐車場の下に駐輪場があるのも可。

13、臼田駅の整備、あり方を考える。

待ち時間が多いので、観光案内をはじめ、ミニミニ図書館など。臼田の文化、観光、先人達の紹介文をおくなど、駅舎の利用を。

## 医療・福祉

- 1、世界最高健康都市構想の見えるまちとして、臼田地区を病院の再構築に合わせ、医療・福祉・介護を中心とした、これからのまち、モデル地区として佐久市都市計画マスタープランに組み込んで欲しい。
- 2、合併前には、臼田にはメディカルオアシスハイウェイオアシス構想まであり、佐久市南部ゾーンは医療ゾーンとして位置づけられていた筈である。状況は変化しても、佐久病院の本院は臼田地区に残り、地域密着型の病院再構築を目指して前向きに対応する内容が発表されています。
- 3、複合コミュニティセンター・健康ランド・老人福祉施設・マンション等の建設を佐久病院の再構築に合わせ、まちなかへ誘致実現できるよう対応をお願いしたい。
- 4、福祉型コンパクトシティ構築のためには、高齢者向けマンション・介護施設等の更なる充実が必要。
- 5、④「老人向けマンション・介護施設の誘致。病院を核として中心部に福祉施設・移住者向け有料マンションを建設」・⑤「サンマルコ跡地を有効利用(介護・医療など健康関連業種に限定)」を特にお願いしたい。
- 6、専門的知見は病院に依存しながら、その周辺に民・官・学協働による「医療」「福祉」「介護」「食」「農」に関する産業を配置していくのはどうだろう。福祉はもちろん「食」「バイオ」関連産業は成長産業である。
- 7、①③は経済で検討したほうが良い。(気楽に話せるコミュニケーション、コミュニティセンター、健康ランド、地元食材販売センターの複合施設)
- 8、④(老人向けマンション・介護施設の誘致)は基本的には賛成。佐久市民以外の高齢者の流入が増えると、国保・介護保険料、市の財政圧迫につながる可能性大。
- 9、長生きしてよかったと言えるまちづくりを。空家利用でも色々考えることが出来る。

10、年寄りの智恵を活かせる場。

11、保育所的なもの、子供の一時預かりの場も。子供の本、図書館も考える。  
全ての悩みごと相談のできる場を。

12、佐久市側も傍観するだけでなく、変化に即応したまちづくりプランを立て、積極的に対応して欲しい。

## 佐久総合病院

1、地域と共に歩む病院として、まちづくりにも積極的に協力をお願いします。

2、特に河川敷駐車場はまちなかへ移設する方向で、商店街、行政とも前向きに協議して欲しい。

3、佐久病院医師住宅用地、及び現在利用されている駐車場用地も含め、更なる有効利用、世界最高健康都市に見合うまちづくりを行政と協力してお願いします。

4、新しい再構築プランによると、教育ホールはそのまま残す計画ですが、出来れば解体し、新しく佐久市と共同で利用できる複合コミュニティーセンターのような施設建設に協力できないだろうか。

5、本院の基本構想計画では、精神科ビルと北病棟を駐車場にする計画の様ですが、現在の勝間園を移築したい様子なので、駐車場計画の土地を利用させてもらってはどうか。  
駐車場は、中央ビル中心の所へ持ってきた方が、まちづくりとして有意義ではないでしょうか。

6、地元商店をどんな風に考えているのか、病院側から見えてこない。萬寿堂さんから玉屋菓子店さんまで土地を提供していただき、病院が車道から見えるようにしてもらいたい。

7、6つのセンターを考えているようですが、現在ある「がん支援センター」を見ても、机ひとつあるだけで、いつもほとんど誰も利用していないようにしか見えません。見せ掛けのセンターは要らないと思います。

8、民間病院として、更に成長・発展・拡大して行って欲しい。

9、福祉型コンパクトシティ構築のための医療面のサポート、老人向けマンション、介護施設等のフォローを願いたい。

10、新しくなる佐久総合病院本院、小さくても佇まいのある姿に。

- 11、臼田高校インテリア科の生徒の作るステンドグラスに期待する。
- 12、霊安室を明るくすてきな部屋に。これから老人が増え、病院で死を迎える人が多くなる。  
そのための部屋はすてきなものに。
- 13、佐久総合病院等との地域的連帯感の更なる強化を図る。
  - ① 医師や医療関係者等の住居地をコンパクトシティ周辺へ誘導、定住化を図る。
  - ② 佐久市内の諸医療業務に携わる看護専門学校の拡充、医療事務系の有資格者を養成する。
  - ③ 病院で使う各種食材は極力地産地消体制を目指す。
  - ④ コンパクトシティ周辺にケア付き住宅、介護施設、福祉施設などを誘致。
  - ⑤ 現状、あいとぴあ臼田にある地域包括支援センターやディサービスセンター機能をコンパクトシティ周辺に移転し、④項と共に介護・福祉業務の現場を集中し連帯性を高める。

## 行政

- 1、現状の臼田地域の置かれている状況を科学的に分析して頂き、将来に向かって希望の持てる再生都市計画プランを立てるようお願いします。
- 2、「佐久市病院対策室」で、佐久病院の再生計画が実施された場合の臼田地域の影響調査を早急に実施していただき、流入人口、定住人口等の変化、臼田経済に及ぼす影響調査ほか臼田地域の問題点を共有し、情報提供願います。
- 3、①を有効利用する→支所の空き部屋を利用し④⑤の組織（住民自治組織・TMO組織）が活用できる場の提供として、考えてはどうでしょうか。
- 4、臼田支所を有効利用する。コミュニティ・研修施設として開放する。
- 5、区民、市役所、商工会、佐久病院等をまとめ協働自治組織を作り、継続的なまちの活力維持を主な目的に行動する。
- 6、臼田に複合コミュニティ健康福祉施設を、合併特例債を利用して計画実現して欲しい。（メディカルハイウェイオアシス計画の代替案として考慮されたし）
- 7、臼田の小学校は近い将来合併せざるを得ない状況にあると思います。現実を早く認識し先送りせず、議題項目として、まちづくり計画に加えてください。
- 8、佐久病院の再構築を期に、臼田地域の用途地域見直しの検討、サンマルコ跡地、信東社跡地等の有効利用、勝間園の移設問題も合わせ、検討を進めるようお願い致します。

- 9、「駐車場」と「佐久総合病院」のところで意見した様に、勝間園を病院敷地内に入れても良いのではないかな。  
中込の医療センターにあれだけ税を投入するのだから、その位は病院に認めさせるべきではないかな。
- 10、②「病院職員の住居建設時の優遇策、税金等の優遇策」は必要なし。  
⑨「小学校の統廃合計画を早期に立て、跡地利用も含めた有効利用」は、早期に考えてください。全てが、行政がリーダーシップをとらなければ前に進まないと思います。駐車場(中央ビル跡地利用)は、早期に手をつけて欲しいです。
- 11、②――企業の職員にだけ便宜を図れという考え方、病院職員というのは市民の中でも特別な立場なのですか?非常識な考え。この意見削除。
- 12、柳田市長の掲げる「世界最高健康都市」構想は、具体的に何をもって実現しようと考えているのか?明確なビジョンを職員に示し、共有する形で市民に発信し続けているのか?  
佐久総合病院が存在し続ける臼田地域が、当然モデル地区としてその実現に向けて、住民と歩調を合わせて進むべきであると考え。何が必要で何が必要でないのか取捨選択する時である。
- 13、自発的な住民、及び業者の奮起を期待するだけでは、この厳しい時代・社会状況の中で、企業体力も落ち、後継者不足他諸問題を抱え、自立活性化を期待するのは難しい状況であります。行政側での「リーダーシップ」を期待します。
- 14、④今までは四者が一堂に会して、地域の案件について議論する場がなかった。声を反映させるためにも、行政はきちんとした組織を立ち上げるべき。
- 15、福祉型コンパクトシティ構築のため、道路等の整備、高齢者向け住宅用地確保およびその税制面からの補助等が必要。
- 16、佐久市に先人を称える冊子が出来るといい。18人の中、今回は臼田出身者が7人いる。その先人達の部屋(コーナー)を元役場に作りたい。若月俊一・井出一太郎・大給恒・川村吾蔵・丸岡秀子・田河水泡、竹内好
- 17、大きい事を望むのも良いが、まず足元から。  
受話器をとったら「ありがとう」運動。人と会ったら、挨拶運動。隣は何をするひとぞ…ではないまちに。
- 18、ボランティアの出来る人を育てる。例えば、観光案内、先人たちの教えを語る。建物など昔の歴史を語る。そろばん塾、英語、地図。  
佐久病院があったので、思いがけない人がまちを訪れている。その人たちとの関わり。
- 19、行政の役割、地域連携のあり方の更なる強化
- ① 「まちづくり長期ビジョン」を進めるための住民自治組織の整備と行政との協働体制の確立。
  - ② 「まちづくり長期ビジョン」を進めるための臼田支所への機能拡大、総合支所化。
  - ③ コンパクトシティ再開発に関わる調査・調停等への積極的関与。
  - ④ コンパクトシティに関わる各種企業や専門学校等、病院関係者等の定住促進策、介護施設や福祉施設等に対する積極的誘致活動と、それに関わる何らかの優遇策検討。
  - ⑤ 空き店舗対策を廉価な家賃で借りられるような行政的措置の策定。
  - ⑥ 住民や地区内事業者等と連携した高齢者、買い物弱者への支援体制の強化。
  - ⑦ 商工会、JA等とタイアップした農商工連携、異業種連携への積極的関与。  
(情報提供、専門家の紹介やそれと連携してのコーディネーターなど)